

1. 評価結果概要表

作成日 平成20年3月10日

【評価実施概要】

事業所番号	0170503189		
法人名	社会福祉法人 愛全会		
事業所名	アビターレ グループホーム		
所在地	札幌市豊平区平岸2条2丁目1-1 (電話) 011-821-7000		
評価機関名	社団法人 北海道シルバーサービス振興会		
所在地	札幌市中央区北2条西7丁目かでの2・7		
訪問調査日	平成20年1月28日	評価確定日	平成20年3月10日

【情報提供票より】(平成19年12月1日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	昭和・平成 17年4月1日		
ユニット数	3 ユニット	利用定員数計	27 人
職員数	25 人	常勤	22人, 非常勤 3人, 常勤換算 24人

(2) 建物概要

建物構造	鉄筋コンクリート 造り		
	5 階建ての		5 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	78,000 円		
その他の経費(月額)	・光熱水費 21,500円 ・暖房費 8,300円(11月~3月)		
敷金	有()円 (無)		
保証金の有無(入居一時金含む)	有()円	有りの場合償却の有無	有 / 無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり 1,300 円		

(4) 利用者の概要(1月28日現在)

利用者人数	26 名	男性	2 名	女性	24 名
要介護1	5名	要介護2	10名		
要介護3	7名	要介護4	4名		
要介護5	0名	要支援2	0名		
年齢	平均 85 歳	最低	66 歳	最高	96 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	KKR札幌医療センター・社会保険病院・にひら歯科医院
---------	----------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

平成17年、高齢者総合施設アビターレ開設と共に誕生したグループホームである。1階から2階はデイサービス、3階から4階はナーシングホーム、5階がグループホームである。各ユニットは、明るく清楚で衛生的なダイニングルームを中心に、高級感のある家具・絵画・造花などの調度品が揃っている。心身の状態に即した、利用者本位の介護計画の基で良好なチームケアが展開している。総合福祉施設を活かして、デイサービス・ナーシングホームとの連携を図り、イベントや施設の利用を通して柔軟な支援を受けている。全スタッフは、研修・衛生・安全対策などの委員会に所属し、総合福祉施設の利点の更なる向上を目指し、日々研鑽に努めている。

【重点項目への取組状況】

重点項目①	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>前回評価の改善課題は3点であったが、全スタッフが共有すると共に運営推進会議に報告し、意見や助言を下に改善の取り組みが行われた。改善計画シートを作成し、「計画・実行・評価」のサイクルを重視することが望まれる。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>評価の意義や目的を全スタッフで確認し、個々の職員が記入した内容をカンファレンスで話し合い、実施内容と今後に向けての取り組みを確認している。個々の職員からの意見・希望・決意はサービスの質向上に繋がっている。運営推進会議にも報告をしている。</p>
重点項目②	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <p>平成18年12月に初開催したが、それぞれのメンバーの開催曜日や時間帯の調整が難航し、3~4ヶ月隔の開催になっている。ホームの現状報告や行事計画を始め、自己・外部評価の結果などについて報告し、意見や助言を拝聴している。会議の内容は全スタッフに報告し、カンファレンスを実施してサービスの質向上に繋がっている。</p>
	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)</p> <p>1階廊下の一面アンケートカウンターには、ご意見箱受付BOXを置き重要事項説明書にはホームと公的機関の相談窓口を示している。苦情の対応手順や処理の流れなど、アビターレとしての苦情に対する基本姿勢と苦情解決責任者を明確にしている。</p>
重点項目③	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>町内会に加入し、地域や商店街の行事に参加している。買い物や散歩を始め、総合福祉施設アビターレのイベントを通して双方向的な交流が行われている。また、地域防災体制の実現を模索する共に、認知症サポーター養成にも力を入れ地域活動を展開している。</p>
重点項目④	

2. 調査報告書

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	母体となる法人の理念はグループホーム・ユニットへと具現化し、各ユニットの理念は利用者の状況に即したスタッフの思いを本に年に1度見直しを行なっているが、地域密着型サービスの意義を盛り込んだ理念の標榜はしていない。	○	ホームとして、地域密着型サービスの意義を確認し議論しながら理念の見直しが検討されているので、具体的に盛り込んでいくよう期待したい。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	母体となる法人・ホーム・各ユニットの理念を掲示し、毎日の申し送り、定例カンファレンス、ケアプランの見直し時などに確認し、日常的な取り組みが行なわれている。		
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	町内会に加入し、地域や商店街の行事に参加している。買物や散歩をはじめ総合福祉施設アビターレのイベントを通し地域との接点を大切にし、双方向的な交流が行われている。また、認知症サポーター養成にも力を入れて地域活動を展開している。		
4					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価の意義や目的を確認し、個々の職員が記入した内容をカンファレンスで話し合い、実施内容と今後に向けての取り組みを確認している。外部評価の結果は全スタッフが共有し実践に繋げている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	平成18年12月に初開催し、それぞれのメンバーの開催曜日や時間帯の調整が難航し、3～4ヶ月隔の開催になっている。ホームの現状報告や行事計画を始め、自己・外部評価の結果などについて報告し、意見や助言はサービスの質の向上に繋げている。		
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市開催のリーダー研修や管理者研修に参加すると共に、実践者研修や開設者研修を受け入れ、市との人的交流が盛んに行われている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族来訪時には利用者の現状報告を中心に話をし、毎月の出納帳・領収書と共に請求書や予定表を送付している。尚、2ヶ月隔に利用者の写真満載のお便りを送っている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	1階のアンケートカウンターにはご意見受付BOXを置き、重要事項説明書にはホームと公的機関の相談窓口を示すと共に、苦情の対応手順や処理の流れなど、ホームの苦情に対する基本姿勢を明確にしている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員のレベルアップを図るため、法人内での人事異動は多いが、利用者・家族への信頼が途切れないようお便り・挨拶などで対応を明確にしている。3ユニットと共に開放し相互訪問など自由な往来を通して、全利用者との馴染の関係作りが行われ新旧職員とマンツーマン対応を一定期間行っている。		


外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	内部研修を年間計画に位置付けし全員参加の体制が出来ている。外部研修は各ユニット1名ずつ計画的に参加し、研修後はカンファレンスで報告をして全職員の共有を図っている。尚、アビターレ複合施設の利点を向上させる視点から、研修委員会を設置している。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	法人グループホーム内16ユニットによる相互訪問を通じた交流・研修を積極的に行い質的向上に繋げている。又、グループホーム地区連合会議に参加し、他法人同業者との交流が始まり実践的な交流の場へと成長しつつある。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐徐に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	相談があった時点で訪問調査を行い、本人・家族に事業所訪問をお願いしている。家族からは特に生活歴を中心に情報収集を行い、その人らしく生活できるよう馴染の関係作りに努めている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	今までの生活史の中から、主に職業歴を通じた役割や教えを受ける場面を大切に、感謝の気持ちを分かち合う関係を構築している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者の生活歴を知り、日々の関わりの中で言動や表情などから思いや希望を把握し、それを受け入れ全職員が共有して対応に努めている。また、家族の協力もいただいている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	アセスメントを含め全職員によるモニタリングやカンファレンスを実施し、精神・身体などに即した利用者本位の介護計画を作成している。介護計画とケース記録を連動させ、適切なケアに繋げている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画の期間を短期は3ヶ月・長期は6ヶ月に設定しているが、月1回全利用者を対象にカンファレンスを行なっている。状態変化時には、速やかに全スタッフ・家族との情報交換を行い内容の間直しを行なっている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	通院・寺の墓参りの送迎や、他事業所のイベントに参加するなど柔軟な支援を行なっている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	各ユニットにはそれぞれの掛かりつけ医がおり、週に1度の訪問看護・2週隔の訪問診察を受け、日常的な健康管理と24時間の医療体制を確保している。又、ホーム及び法人医療機関が協力医療機関と相互に連絡を取り合い連携を図っている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化した場合の対応指針を文書化し入居時に説明している。訪問診察医による本人・家族への説明時に、管理者が同席し関係者全員で方針の統一を図っている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	日常的な声掛けや排泄誘導を始め、申し送り時には実名を言わぬなど、利用者の誇りやプライバシーを傷付け損ねないように努めている。記録類は特定の場所に保管し、個人情報は医療機関への提供を限定し同意を得ている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者の生活習慣や体調・思いを大切に起床時刻・居室食事・夜間入浴・晩酌など、個別化・個性化を大切にした「その人らしい暮らし支援」に努めている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者は、食事の一連活動に積極的に参加している。会話も盛り上がり、利用者間の助け合いの姿が見られた。外食や施設内レストランの利用・寿司職人を招くなど、食事が1日の中で大切な活動の一つになっている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴は午後1時からと決められ、希望により夜間入浴や毎日の入浴が可能である。事前の声掛けや意志確認の上で見守りや介助により入浴を行なっている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	生活歴を通じた得意分野で役割を持てるよう支援している。週1回の趣味活動やゲームを利用者同士で楽しみ、デイサービスのイベントに参加するなど複合施設ならではの楽しみも持っている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	夏期間中の天気の良い日は、散歩・ゴミ捨て・美容院への外出を始め、中庭での外気浴やスタッフ同行によりデパートでの買物などに出掛けている。冬期間は1階から5階の館内散歩を日課に取り入れている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	ホームのエレベーター入り口はキーロックしているが、管理者は入居者の生命と自由を守る使命感を持ち、外出や各階への往来にはスタッフが同行しユニット間の往来を自由にするなど、閉塞感を感じさせないように配慮すると共に、万が一に備え各階との連携ができています。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年2回、事業所の自主的訓練と消防署の指導の下で、諸条件を想定した実践的避難訓練を実施している。スプリンクラーを設置し非常食を確保するなど万全な体勢を目指しているが、地域と連動した体制が今後の課題である。	○	町内会の防災訓練に参加し協力体制を確保したい意向を持っている。地域防災の視点から、鉄筋コンクリート5階建ての建物と広大な駐車場の活用を含め、地域と連動した一体的な防災体制の実現を期待したい。
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	管理栄養士の献立による食材宅配を2日隔に受けている。1日1600calを目安に摂取量の少ない利用者は量を確認し、おやつや補助食品で補っている。水分は1000cc以上を目安に全員チェックし個別の支援を行っている。尚、毎週月曜日は献立のない日で、利用者の希望を取り入れた食事支援をしている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	5階のエレベーター出口がホームの入り口となる。各ユニットと共に明るく、衛生的なダイニングルームを中心に、トイレ・浴室と居室が使いやすく隣接している。高級感のある家具と絵画・造花を飾り、優雅な雰囲気を醸し出し居心地よく過ごせる場になっている。各ユニットは共に開放的で共有のパブリックスペースが確保され、ホーム全体がバリアフリーになっている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	各居室には洗面台と使いやすく大きめのクローゼットが設置され、好みの家具やテレビなどを持ち込み、自作品を飾り、清楚で明るく居心地よい雰囲気である。居室入り口にはメモリアルBOXを設置し本人や家族の思い出の品々が飾られている。		

※  は、重点項目。